



日本共産党文京区議会議員  
**まんぢち幹夫** 通信 **週刊**  
 2012年3月23日号 No.235

**'みなさんをいつもまんぢかに'**

区議団控室：5803-1317 (直通)  
 萬立幹夫事務所：文京区小石川2-23-7  
 ・fax 3868-8355  
 メール：mandachi@jcp-bunkyojugidan.gr.jp

《このニュースは区議団ホームページ <http://www.jcp-bunkyojugidan.gr.jp/>でもご覧いただけます》

東日本大震災から一年、様々なイベントが開催

**「3・11」を国民的記憶の日にできるか  
 憲法25条が生きる社会をつくるために**

大震災からちょうど一年の3月10日、東洋大学で開催された「震災から一年、これからの日本を考える」(実行委員会主催)つどいに参加しました。会場の東洋大学は私の出身校、しかしあのように立派になつた学内には初めて足を踏み入れました。まあ、びつくり。大型展示会場のようでした。講師は渡辺治 一橋大学名誉教授。一時間半たつぷりの話でしたが、まったく飽きさせません。思いつくままに、印象をつけた講義内容を紹介します。

なぜ震災と原発事故はあれだけ深刻に地域を壊したか 雇用、社会保障など「構造改革」で震災前から壊されていた。大槌町では職員数が減つたうえに被災、復興にあたる町職員が足りない。災害を好機とした大企業本位の復興 「大災害は経済成長にはプラス」などあからさまな発言も。



東洋大6号館(上)と  
 気仙沼からの報告



「上からの復興」で大手会社に丸投げ。これからの日本をどうする 原発ゼロと原発に依存しない地域経済を。『新たな福祉国家を』 安定した雇用、社会保障の拡充で経済の活性化をめざす。

渡辺治氏の講演と、気仙沼からの報告

**「大震災から学んだ地域のつながり」気仙沼からの報告**

18日夜は、区民センターで礪川おやじの会主催(近隣町会共催)のつどいが開催。100人を上回る参加者が熱心に聞き入りました。震災時の様子、地域の助け合い、金融機関の役割…。信金勤務の方の講演は、説得力がありました。区内の地域のみなさんの連帯も、力強いです。

**2～3階建ての町に、なぜ7階建てが許されるのか！**

**高さ制限第二次案説明会**

土曜日の雨の午後、好天のなかを40名弱の区民のみなさんが「絶対高さ制限 第二次案説明会」に参加しました。

私も開会ぎりぎりに会場のシルバーホールに。「高さ制限は現状の町の高さに合わせるべきだ」「高い方に誘導しているようだ」「今まで以上に近隣紛争がおきるのでは」など、次々に質問の手が上がります。前回(第一次案)と比べて問題点が浮き彫りになってきたのでしょうか。さらに第三次案を検討しています。区民意見がカギです。



**まんぢち日誌**

15日 午前、「区民功労賞」受賞式に参加。区民栄誉賞1名、特別功労4名、区政功労71名が受賞。おめでとうございます。

17日 あいにくの雨。地域での活動の予定ができませんでした。やむなく延期です。もっと宣伝活動などしなくては、と思いつながら。

19日 朝、区庁舎内の新聞を配つてから、第三中学校の卒業式に。卒業生の答辞の「三中は一人ひとりの力が発揮できる学校です…」が自分の保護者だった経験から納得できます。校長先生の式辞も、温かみがありました。

20日 午後、久しぶりに映画館へ。「青い塩」という映画、主演俳優が味があります。最後まで、ハラハラ。